

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふあみていー			
○保護者評価実施期間	令和7年2月4日 ~ 令和7年2月15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	令和7年2月4日 ~ 令和7年2月15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	15名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月19日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員同士で多くコミュニケーションをとっている。支援の話や業務改善の話、フリートークなど様々な場面での会話の機会を多く作っている。いつでも話をしやすい環境の為、困った際や何かあった時は抱え込みます相談できる関係性であり、チームで助け合うことが出来ている。	・管理者がスタッフに対し仕事以外の話も積極的にし、関係性を深め仕事の話もしやすい環境を作っている。 ・意見を出し合う、話し合う為に職員全体で話し合いをしている。	・承認し、自信を持ってもらい支援につなげていく。 ・考えたことをまず実践してみる。 ・支援や関わりに対して、それぞれの職員が積極的に取り組んでいくよう、より内容の充実を図っていく。
2	・カリキュラムは五領域に沿って取り組んでいる。保護者のニーズや状況に応じてはもちろんの事、集団活動や個別活動の中で行い、専門職による専門的なアプローチにも取り組み、幅広くかつ質の高い支援の提供を行っている。	・意思決定を大切に何を取り組みたいかなどその都度確認し取り組んでいる。 ・無理に参加を促さず、本人のペースで少しづつ成功体験を積んでいく。	・苦手な事を練習するのも大事であるが、得意と感じる所をさらに伸ばし可能性を広げていく。 ・引き続き、社会で過ごしていく事を優先とし保護者や本人の状況に応じた対応をしていく。
3	・利用者や保護者に喜んで頂ける取り組みも多く取り入れている。特に制作やクッキングなど、自宅ではなかなか取り組みにくい内容も行い、様々な工夫をしながら経験・体験ができる内容を行っている。	・季節に合わせてどのような制作がいいかみんなで意見を出し合っている。安全なハサミを用意する等、配慮した内容に取り組む機会を増やしている。 ・クッキングでは季節の食材を使用し、四季に触れる事で理解も高めている。配膳や準備など最初から終わりまで取り組んでいる。	・制作以外に、就学前の取り組みも増やしていくよう活動を増やしていく。 ・外出イベントの機会も増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ケース会議に決まった人が参加する事が多い。	・職員間で話し合った内容をまとめ、主に管理者が参加している。	・様々な対外的な対応に慣れていく。 ・今後は管理者とともに様々な職員も交えて参加の機会を作っていく。
2	・避難訓練をしっかり取り組んでいるが、保護者への伝え方が弱いと感じる。	・伝える情報の整理ができていなかった。	・送迎時にどこに避難したかなど写真を使い明確に伝えていく。保護者に向けた記録を作成、提示をしていく。
3	・共有はツール等も使い強化しているが、誰が処理するか決めていないこともあります、漏れてしまいそうになることがある。	・共有事項に目を通してはいるが、処理が出来ているか回収が行えていないことがある。声掛けをしていくと、より漏れが防げる可能性が高い。	・最終ミーティングで回収をしっかり行い、視覚的にもさらに分かりやすく取り組んでいく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名	ふあみていー
------	--------

公表日 令和 7 年 3 月 31 日

利用児童数 35名

回収数 25名

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	1		2	・活動しやすいスペースが確保できる。	・見学時に事業所内を見て頂いているが、都度不満点を聞き、改善に努めている。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22	1		2	・細やかに対応してくれている。	・見学時に説明を行っているが、より分かりやすく伝わりやすく説明を行う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	1		1		・今後把握していただくにあたり、一つ一つ丁寧に説明を行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22	2		1	・いつも片付いています。	・今後も継続していく。 ・いつ来客が来てもいい様玄関の靴の置き方をより工夫を行い、より清潔を保っていく。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	2		3		・専門的訓練を行った際も保護者に説明を行い、理解に繋げていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22			3		・毎月スケジュール表をお渡しする際どのようなカリキュラムを行っているかも伝えていく。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	1		1	・詳しく聞きとり、説明をしてくれている。	・引き続き詳しく聞きとりや説明を行っていく。 ・計画書を作成し署名を頂く前にもわかりやすく説明を行う。
	8 児童発達支援計画には、「児童発達支援ノット」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が記載されていますか。	25					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23			2		・引き続き、適宜面談等を行い、意向を確認しながら作成を行っていく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	1		2		・保護者、利用者が満足し固定化しないよう取り組みに工夫を行っていく。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	2	2	12	・系列のセンターと連携して対応してくれている。 ・保育園までの送迎ありがとうございます。 ・参加していない為、不明。	・今後交流ができる機会を増やしていく。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25				・それぞれの専門職の方が丁寧に話してくれる。	・今後も丁寧な説明を継続していく。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	2	2	11	・自宅でもできる支援について、お話をしてくれる。 ・参加していない為、不明。	・今後家族なども一緒に参加ができる機会を作っていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができるていると思いますか。	25					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25				・専門職の方が丁寧に支援してくれている。	今後も継続していく、より丁寧に行っていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23	1		1		・今後共感が伝わる話し方をしていく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	8	15	・利用頻度が限られている事もあり、把握していない。 ・参加していない為、不明。 ・もしかったとしても、参加できるか不明。	・今後、開催を検討していく。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21			4		・相談をしやすいよう関係性を深めていく。超過で受け入れも迅速に行っている。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24			1		・引き続きどの保護者にも分かりやすいよう配慮に工夫を行っていく。

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15			10	・結果を公表しているか、箇所が分からない。 ・主にLINEを通して伝えてくれる。	・自己評価結果は事業所内で閲覧可能としている。 ホームページに掲載している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23			2		・鍵付きの書庫にて厳重に保管している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	1		2	・最初の説明で伺いました。	・見学や面談時、都度お問い合わせがある時に説明を行っている。異なる周知の方法を検討していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	3		9	・最初の説明で伺いました。	・避難訓練は定期的に行っている。より分かりやすく周知を行う。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20			5	・最初の説明で伺いました。	・安全点検の実施や訓練や研修を引き続行い、安全計画の内容の説明を行っていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22			3	・最初の説明で伺いました。	・事故が起きた場合、落ち着いた対応ができるよう説明の練習も行っていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	24	1			・笑顔で利用できています。	・今後も継続していく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	23	1		1	・子どもが細かく表現ができない為、分からぬが、行く直前はスムーズに動けています。	・楽しめる取り組みを増やしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	24	1			・専門職の方に関わって頂き、結果も出て満足している。	・今後も継続していく。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		ふあみていー				公表日	2025年3月31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15		空間を遮る環境ではなく、広く活動がしやすい空間になっている。			
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15		適切である。	現状を維持していく。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15		ホワイトボードを使用し実際の時計と同じ時計の写真を使用しタイムスケジュールを見やすくする等取り組んでいる。	個々の特性に応じて視覚支援の工夫も行っていく。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	15		毎日の清掃や、時間毎の室内消毒や換気を行い、清潔な状態を維持している。	引き続き、感染対策を行い、清潔な状態を維持していく。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15		空間を仕切って使用する事ができる。			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15		朝夕にミーティングを行い、目標の設定や進捗の確認、共有をスタッフ全員で行っている。	引き続き、ミーティングなどで職員間の情報共有を行っていく。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		全職員で話をし、日々の支援に繋げている。			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15		ミーティング以外にも個別で話をする機会を設けるなどしている。			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15		他事業所との関わりの中で行っている。			
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15		毎月、講師を招いて研修を行っている。	研修の内容をふまえ、普段の業務に反映していく。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15		職員間で検討し合いながらプログラムを作成している。			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15		面談や都度話をしており、本児と保護者の意向を聞きながら作成を行っている。	保護者のニーズや子どもの状況などを日々の支援の中で確認をしながら計画作成を行っている。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15		行われている。			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15		個別支援計画に沿って行うとともに、状況に応じて都度必要な支援を取り入れている。	事業所内での会議に手、ニーズや課題の掘り下げなど随時行っていく。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15		行っている。			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15		それぞれの項目に沿って計画を立て行っている。			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15		職員間で担当を割り振り、内容の共有を行ながら検討し、プログラムの立案を行っている。	引き続き、様々な活動の立案を事業所全体で行っていく。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15		個々のレベルに応じた内容や、スマーチスアップで少しづつ活動の難易度を話し合い、固定化しないよう工夫をしている。	職員間で意見交換を行いながら、様々な活動を行っていくよう引き続き工夫し、取り組んでいく。		

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15		日々の過ごしの中で振り返りや共有を行い作成、支援を行っている。	どちらも取り入れ、組み合わせて作成・支援を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15		朝夕にミーティングを行っている。	今後も朝夕にミーティングを行い、情報共有を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15		朝夕にミーティングを行っている。	今後も朝夕にミーティングを行い、情報共有を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15		ミーティングでの共有などを記録に記入し、検討したり改善を行っている。	今後も記録を残していく、日々の支援に繋げていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15		半年に一度行っている。	必要に応じて対応していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15		参画している。	関係機関とのケース会議等を率先して提案していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15		整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15		支援者会議を行い、情報共有を徹底している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学校部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15		支援者会議を行い、情報共有を徹底している。	引き続き、情報共有を行っていく。率先して会議の提案などを行っていく。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	15		設けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	15		送迎時や公園などの野外活動の際に、地域との交流がもてるようになっている。	引き続き、様々な形で交流や関わりの機会を作っていく。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15		何かあれば都度相談できる対応を整えている。送迎時や面談時など、様々な場面で伝え合っている。	
△	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15		ペアレントトレーニングとしての提供は現状ないが、保護者との会話を通して必要な支援・ニーズについての共有を行っている。	今後、様々な形で会を行っていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15		契約時に丁寧な詳細の説明を行っている。	引き続き、丁寧な説明を継続して行っていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15		面談時の話や意向をもとに作成をしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15		同意を得ている。	
△	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15		面談・送迎時以外に必要に応じて電話にて話を聞き、助言や支援などを行っている。	引き続き、相談をしやすい環境を整えていく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	8	現状行っていない。	今後検討をしていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15		対応している。	引き続き、対応をしていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に對して発信しているか。	15		スケジュールやホームページなどで発信をしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15		個人情報の持ち出しなどは行わず、事業所内の鍵付き書庫で保管している。	引き続き、徹底した管理や取扱いを行う。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15		分かりやすい内容で配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	15		いつでも見に来て頂ける体制を整えている。	引き続き、行っていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15		実施している。 マニュアルに準じて都度対応をさせて頂いている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15		定期的に行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15		確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15		アレルギー表を頂き、保護者様とも都度確認を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15		行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15		行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15		ヒヤリ事案が発生した場合、すぐに作成し共有や検討会を行い、再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15		研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15		該当児はない。その際はしっかりと対応ができるように、研修や委員会などを開いて周知を行っている。	